03　文化芸術の鑑賞と活動

（1）日常生活で文化や芸術を鑑賞すること

図3-1-1 日常生活で文化や芸術を鑑賞すること

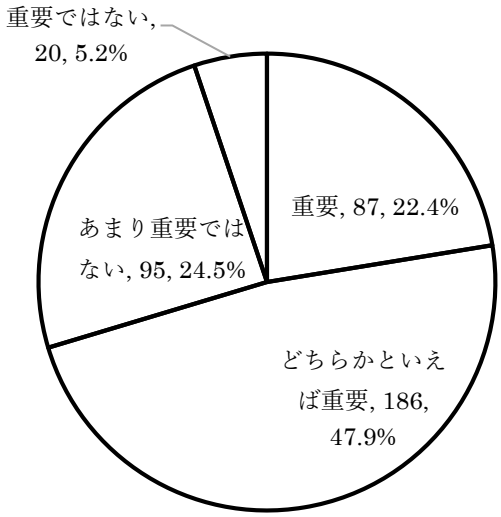


表3-1-1 日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要	87	22.3	22.4	22.4
	どちらかといえば重要	186	47.7	47.9	70.4
	あまり重要ではない	95	24.4	24.5	94.8
	重要ではない	20	5.1	5.2	100.0
	合計	388	99.5	100.0	
欠損値	無回答	2	0.5		
合計		390	100.0		

（参考）『平成 27 年度調査』日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて

		度数	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要	114	24.1	24.1
	どちらかといえば重要	151	31.9	55.9
	普通	149	31.4	87.3
	あまり重要ではない	40	8.4	95.8
	重要ではない	20	4.2	100.0
	合計	474	100.0	
欠損値	システム欠損値	3		
合計		477		

日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて、「重要」との回答は 22.4%、「どちらかといえば重要」が 47.9%で、7 割の回答者が文化芸術の鑑賞を重要と考えている。「あまり重要ではない」

は 24.5%、「重要ではない」は 5.2%である。

『27 年度調査』によると「重要」が 24.1%、「あまり重要ではない」8.4%、「重要ではない」4.2%あった。『27 年度調査』では、「普通」という選択肢があって 31.4%を占めていた。今回、「どちらかといえば重要」または「あまり重要ではない」に分散した可能性がある。

図3-1-2 年齢別・日常的に文化や芸術を鑑賞することについて

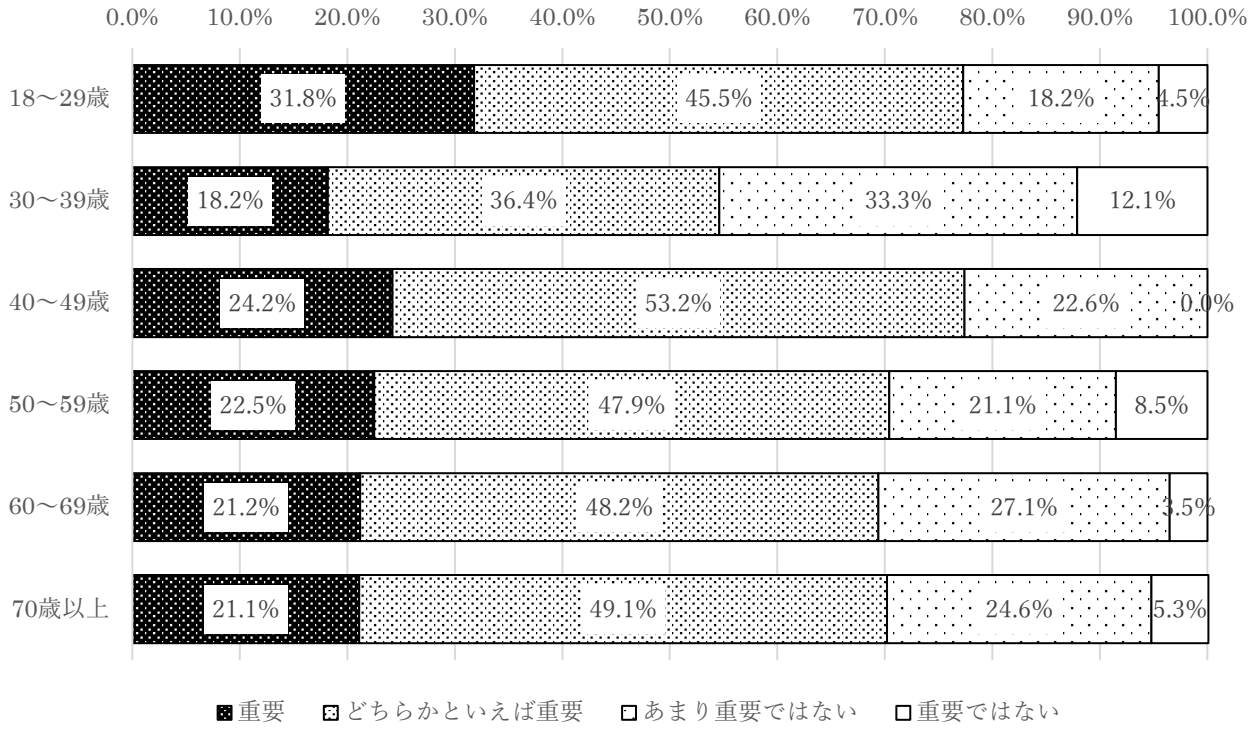


表3-1-2 年齢階級と日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて のクロス表

			日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
年齢階級	18～29歳	度数	7	10	4	1	22
		%	31.8%	45.5%	18.2%	4.5%	100.0%
	30～39歳	度数	6	12	11	4	33
		%	18.2%	36.4%	33.3%	12.1%	100.0%
	40～49歳	度数	15	33	14	0	62
		%	24.2%	53.2%	22.6%	0.0%	100.0%
	50～59歳	度数	16	34	15	6	71
		%	22.5%	47.9%	21.1%	8.5%	100.0%
	60～69歳	度数	18	41	23	3	85
		%	21.2%	48.2%	27.1%	3.5%	100.0%
	70歳以上	度数	24	56	28	6	114
		%	21.1%	49.1%	24.6%	5.3%	100.0%
合計		度数	86	186	95	20	387
		%	22.2%	48.1%	24.5%	5.2%	100.0%

年齢別では、「18～29 歳」で「重要」が 31.8%と年齢階級別では最も多く、年齢が高い階級ほど「重要」との回答の比率は低下する傾向がある。50 歳以上では、「重要」「どちらかといえば重要」の合計の比率 72%程度でほぼ変わらず、50 歳以上では鑑賞することの重要度に違いがほとんどない。いずれにしても統計的な検定の結果、日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについての意見については、年齢階級による有意な差は見られなかった。

図3-1-3 高砂市が文化的なまちと感じるか と 日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて

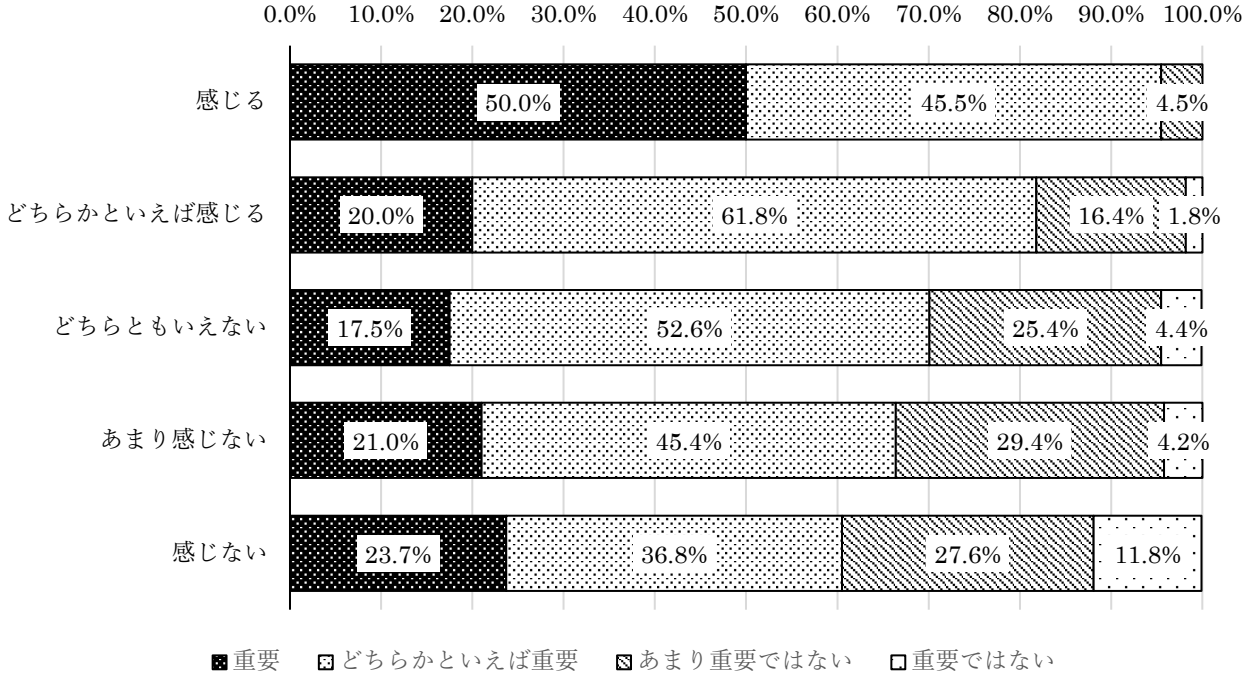


表3-1-3 高砂市が文化的なまちと感じるか と 日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて のクロス表

			日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
高砂市が文化的なまちと感じるか	感じる	度数	11	10	1	0	22
		%	50.0%	45.5%	4.5%	0.0%	100.0%
	どちらかといえば感じる	度数	11	34	9	1	55
		%	20.0%	61.8%	16.4%	1.8%	100.0%
	どちらともいえない	度数	20	60	29	5	114
		%	17.5%	52.6%	25.4%	4.4%	100.0%
	あまり感じない	度数	25	54	35	5	119
		%	21.0%	45.4%	29.4%	4.2%	100.0%
	感じない	度数	18	28	21	9	76
		%	23.7%	36.8%	27.6%	11.8%	100.0%
合計		度数	85	186	95	20	386
		%	22.0%	48.2%	24.6%	5.2%	100.0%

高砂市が文化的なまちと感じるか、と日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて、のクロス集計表を示す。

高砂市が文化的なまちと「感じる」回答者の 50.0%が、日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて「重要」、45.5%が「どちらかといえば重要」と回答、「あまり重要ではない」「重要ではない」はそれぞれ 4.5%、0.0%であり、文化的なまちと感じる人のほぼすべてが、日常生活で優れた文化芸術を鑑賞することを重視している。次に、高砂市が文化的なまちと「どちらかといえば感じる」については、文化芸術の鑑賞について「重要」が 20.0%、「どちらかといえば重要」が 61.8%で最も多く、「あまり重要ではない」は 16.4%、「重要ではない」は 1.8%である。やはり重要と考える割合が高いといえる。高砂市が文化的なまちであるかどうか「どちらともいえない」との回答者の場合、文化芸術の鑑賞を「重要」とするのは 17.5%、「どちらかといえば重要」は 52.6%、「あまり重要ではない」は 25.4%、「重要ではない」は 4.4%である。さらに、高砂市が文化的なまちと「あまり感じない」では、「重要」が 21.0%、「どちらかといえば重要」が 45.4%、「あまり重要ではない」が 29.4%、「重要ではない」が 4.2%であり、「どちらかといえば重要」の割合が高い。そして、高砂市が文化的なまちであると「感じない」との回答者は、鑑賞することを「重要」は 23.7%、「どちらかといえば重要」は 36.8%、「あまり重要ではない」は 27.6%、「重要ではない」は 11.8%であり、4 割近い回答者が、鑑賞をあまり重要と考えてはいない。

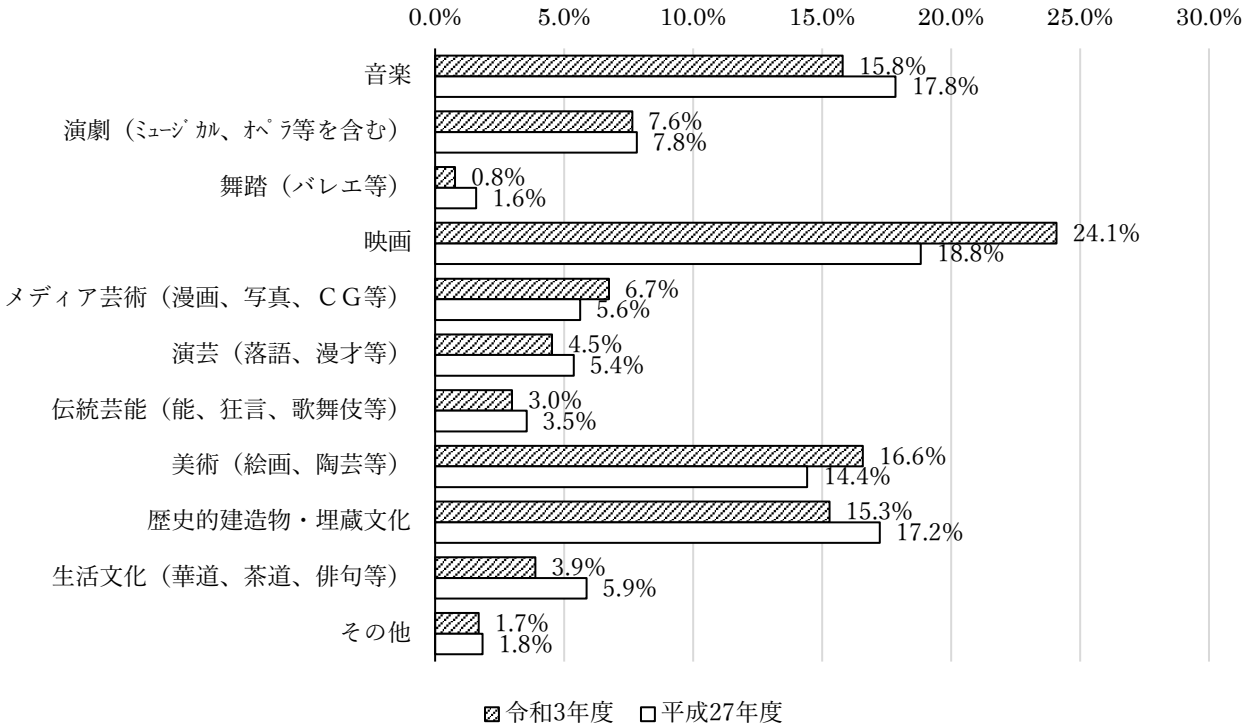
このように、高砂市が文化的なまちと感じることと、芸術文化の鑑賞に対する考え方には、“比例的な関係”があるように思われる。なお、ピアソンのカイ 2 乗検定では、有意確率 0.003 であり、1%水準で有意差があると認められる。

（2）過去3年間で直接鑑賞した文化芸術について

表3-2-1 過去3年間で直接鑑賞した文化芸術（M.A）

		応答数		ケースのパーセント1	ケースのパーセント2
		度数	パーセント		
直接鑑賞した文化芸術[a]	音楽	122	15.8%	44.4%	31.3%
	演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）	59	7.6%	21.5%	15.1%
	舞踏（バレエ等）	6	0.8%	2.2%	1.5%
	映画	186	24.1%	67.6%	47.7%
	メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）	52	6.7%	18.9%	13.3%
	演芸（落語、漫才等）	35	4.5%	12.7%	9.0%
	伝統芸能（能、狂言、歌舞伎等）	23	3.0%	8.4%	5.9%
	美術（絵画、陶芸等）	128	16.6%	46.5%	32.8%
	歴史的建造物・埋蔵文化	118	15.3%	42.9%	30.3%
	生活文化（華道、茶道、俳句等）	30	3.9%	10.9%	7.7%
	その他	13	1.7%	4.7%	3.3%
	鑑賞したものの合計	772	100.0%	280.7%	
	鑑賞をしたものはない	115			29.5%
合計		887			227.4%

図3-2-1 過去に鑑賞した文化芸術（令和3年度、平成27年度）



注）図中の比率は「鑑賞した文化芸術」の合計数（772件）を分母とする構成比率。表3-2-1のパーセントに相当する。
令和3年度は過去3年間で、平成27年度は過去1年間で鑑賞した文化芸術。

過去 3 年間（平成 30 年 4 月～令和 3 年 3 月）で劇場や映画館、美術館、博物館などで直接鑑賞をした文化芸術について複数回答で挙げて頂いた。前回の『平成 27 年度調査』では、「過去 1 年間で、直接鑑賞をしたものがあるか」を設問とした。今回、この 2 年間が新型コロナウィルス感染症の拡大もあり、直接鑑賞をする機会が大幅に減少していることを鑑み、過去 3 年間とした。なお、複数回答（M.A）の場合、帯グラフや円グラフなど、100%を比率で分割するグラフ表示は誤解を生じることがあるため、今回のような棒グラフでの比較を行う。

結果を見ると、「鑑賞したものはない」との回答は 115 件で、全回答者数 390 件に対しては 29.5%を占めており、3 割の回答者は 3 年間で直接鑑賞した文化芸術はなかった。なお『平成 27 年度調査』で「鑑賞したものはない」の回答件数の、回答者数に対する比率は 31.6%であった。

次に、鑑賞した文化芸術の内容に注目する。115 件の「鑑賞をしたものはない」を除くと、鑑賞した文化芸術の件数は 772 件となる。

表 3-2-1 の説明をする。「応答数」は回答数で、「度数」が回答件数、「パーセント」は 772 件を分母とする比率である。「ケースのパーセント 2」は 390 件の全回答者数を分母とするものである。また「ケースのパーセント 1」は、390 件から「鑑賞をしものはない」との回答者 115 件を除いた、275 件を分母として、鑑賞した文化芸術の件数を分子とする比率である。つまり、鑑賞したものがある人は、どの文化芸術を回答したのか、を示す。合計の 772 件については、「ケースのパーセント 1」で 280.7%であり、回答者は 3 年間で平均、およそ 2.8 件の文化芸術に触れことになる。

最も多い回答は「映画」で 186 件、「パーセント」では 24.1%、そして「ケースのパーセント 1」は 67.6%となり、鑑賞した文化芸術がある方の、2/3 は「映画」を鑑賞したと回答した。次いで、「美術（絵画、陶芸等）」が 128 件で、それぞれ 16.6%、46.5%、「音楽」が 122 件で 15.8%、44.4%、「歴史的建造物・埋蔵文化」が 118 件で 15.3%、42.9%となっている。

グラフは『平成 27 年度調査』との比較を示したものである。平成 27 年度の場合は過去 1 年間で、また令和 3 年度は過去 3 年間で鑑賞した文化芸術についての設問であり、対象とする期間が異なっている他、選択肢の表現にも若干の違いがある。示しているのは、それぞれ、文化芸術を鑑賞したことがある回答者を分母とする比率（表 3-2-1 の「パーセント」の欄に相当する）である。

平成 27 年度と令和 3 年度で、上位にある文化芸術の内容に大きな違いはない。まず、「映画」は平成 27 年度で 18.8%から令和 3 年度で 24.1%へと増加、また、「美術（絵画、陶芸等）」も 14.4%から 16.6%へと増加した。一方で、「音楽」は 17.8%から、15.8%へと低下し、「歴史的建造物・埋蔵文化」も 17.2%から 15.3%へ低下した。ただし、「映画」を除くと、差は十分に大きなものではなく、高砂市民が鑑賞した文化芸術の傾向に大きな差はないと考えられる。

表3-2-2 年齢階級と過去3年間で直接鑑賞した文化芸術 のクロス表

			年齢階級						
			18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
直接鑑賞した文化芸術[a]	音楽	度数	11	11	25	18	26	30	121
		%	21.2%	14.9%	15.8%	10.5%	13.6%	12.7%	
	演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）	度数	3	5	10	15	11	15	59
		%	5.8%	6.8%	6.3%	8.8%	5.8%	6.3%	
	舞踏（バレエ等）	度数	1	0	2	0	0	3	6
		%	1.9%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	1.3%	
	映画	度数	16	24	38	41	33	33	185
		%	30.8%	32.4%	24.1%	24.0%	17.3%	13.9%	
	メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）	度数	6	7	11	10	8	9	51
		%	11.5%	9.5%	7.0%	5.8%	4.2%	3.8%	
	演芸（落語、漫才等）	度数	3	0	7	8	7	10	35
		%	5.8%	0.0%	4.4%	4.7%	3.7%	4.2%	
	伝統芸能（能、狂言、歌舞伎等）	度数	0	2	3	2	7	9	23
		%	0.0%	2.7%	1.9%	1.2%	3.7%	3.8%	
	美術（絵画、陶芸等）	度数	3	8	20	25	33	38	127
		%	5.8%	10.8%	12.7%	14.6%	17.3%	16.0%	
	歴史的建造物・埋蔵文化	度数	5	9	20	24	29	31	118
		%	9.6%	12.2%	12.7%	14.0%	15.2%	13.1%	
	生活文化（華道、茶道、俳句等）	度数	1	0	8	5	7	9	30
		%	1.9%	0.0%	5.1%	2.9%	3.7%	3.8%	
	その他	度数	1	2	0	2	5	3	13
		%	1.9%	2.7%	0.0%	1.2%	2.6%	1.3%	
	鑑賞をしたものはない	度数	2	6	14	21	25	47	115
		%	3.8%	8.1%	8.9%	12.3%	13.1%	19.8%	
合計		度数	52	74	158	171	191	237	883
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

（参考）『平成 27 年度調査』年齢階級と過去 1 年間で直接鑑賞した文化芸術 のクロス表（一部）

			年齢階級						
			18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
	鑑賞したものはない	度数	14	20	22	22	32	38	148
		%	7.4%	15.7%	15.8%	14.3%	16.7%	25.2%	

年齢階級とのクロス集計表を示す。複数回答の結果のクロス集計で、比率は回答数を分母とする。

「鑑賞をしたものはない」との回答は、年齢が高くなるにつれて上昇する傾向がある。表に示された比率であるが、「18～29 歳」で 3.8%、「30～39 歳」で 8.1%、「40～49 歳」で 8.9%、「50～59 歳」で 12.3%、「60～69 歳」で 13.1%、「70 歳以上」で 19.8%となっている。年齢階級が上がると「鑑賞をしたものがない」との回答が増加することは、『平成 27 年度調査』にもみられた傾向である。

次に、鑑賞した文化芸術について、年齢階級ごとでの特徴を示す。「映画」は、「18～29 歳」で 30.8%、「30～39 歳」で 32.4%、「40～49 歳」で 24.1%、「50～59 歳」で 24.0%、「60～69 歳」で 17.3%、「70 歳以上」で 13.9%となり、年齢の低い階級で比率が高い。同様に若年層で直接鑑賞した人が多い傾向にあるのは「音楽」で、それぞれ 21.2%、14.9%、15.8%、10.5%、13.6%、12.7%である。また「メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）」はそれぞれ 11.5%、9.5%、7.0%、5.8%、4.2%、3.8%である。

年齢の高い階級で直接鑑賞した人が多いこととしては、「美術（絵画、陶芸等）」があり、「18～29 歳」

で 5.8%、「30～39 歳」で 10.8%、「40～49 歳」で 12.7%、「50～59 歳」で 14.6%、「60～69 歳」で 17.3%、「70 歳以上」で 16.0%である。また「歴史的建造物・埋蔵文化」もそれぞれ 9.6%、12.2%、12.7%、14.0%、15.2%、13.1%となっている。動きのある文化芸術は若年者層ほど、逆に絵画など静的な対象を鑑賞することは年齢層の高い方で比率が高くなる。

表3-2-3 年齢階級別・平均鑑賞数

	年齢階級						
	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
鑑賞した文化芸術数	50	68	144	150	166	190	772※
鑑賞したとの回答者数	20	27	48	51	60	68	275※
平均鑑賞数	2.5	2.5	3.0	2.9	2.8	2.8	2.8

※年齢階級について無回答者の分を含む

「音楽」「映画」など、鑑賞した項目を合計した「鑑賞した文化芸術数」を「鑑賞したとの回答者数」で除した平均鑑賞数（種類）を年齢階級別で求めた。どの年齢階級についても、2.5件から3.0件の間にあり、特に年齢による差はないと考えられる。

表3-2-4 文化芸術を鑑賞することについて と過去3年間で直接鑑賞した文化芸術 のクロス表

			日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
過去3年間で直接鑑賞をした文化芸術[a]	音楽	度数	41	63	16	2	122
		%	33.6%	51.6%	13.1%	1.6%	100.0%
	演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）	度数	22	33	4	0	59
		%	37.3%	55.9%	6.8%	0.0%	100.0%
	舞踏（バレエ等）	度数	6	0	0	0	6
		%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
	映画	度数	50	97	36	2	185
		%	27.0%	52.4%	19.5%	1.1%	100.0%
	メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）	度数	22	22	8	0	52
		%	42.3%	42.3%	15.4%	0.0%	100.0%
	演芸（落語、漫才等）	度数	10	18	7	0	35
		%	28.6%	51.4%	20.0%	0.0%	100.0%
	伝統芸能（能、狂言、歌舞伎等）	度数	9	14	0	0	23
		%	39.1%	60.9%	0.0%	0.0%	100.0%
	美術（絵画、陶芸等）	度数	43	72	12	0	127
		%	33.9%	56.7%	9.4%	0.0%	100.0%
	歴史的建造物・埋蔵文化	度数	39	58	20	0	117
		%	33.3%	49.6%	17.1%	0.0%	100.0%
	生活文化（華道、茶道、俳句等）	度数	14	13	3	0	30
		%	46.7%	43.3%	10.0%	0.0%	100.0%
	その他	度数	3	6	3	1	13
		%	23.1%	46.2%	23.1%	7.7%	100.0%
	鑑賞をしたものはない	度数	14	44	41	15	114
		%	12.3%	38.6%	36.0%	13.2%	100.0%
合計		度数	273	440	150	20	883

文化芸術を鑑賞することについての重要度と、3 年間で直接鑑賞した文化芸術のクロス集計を示す。

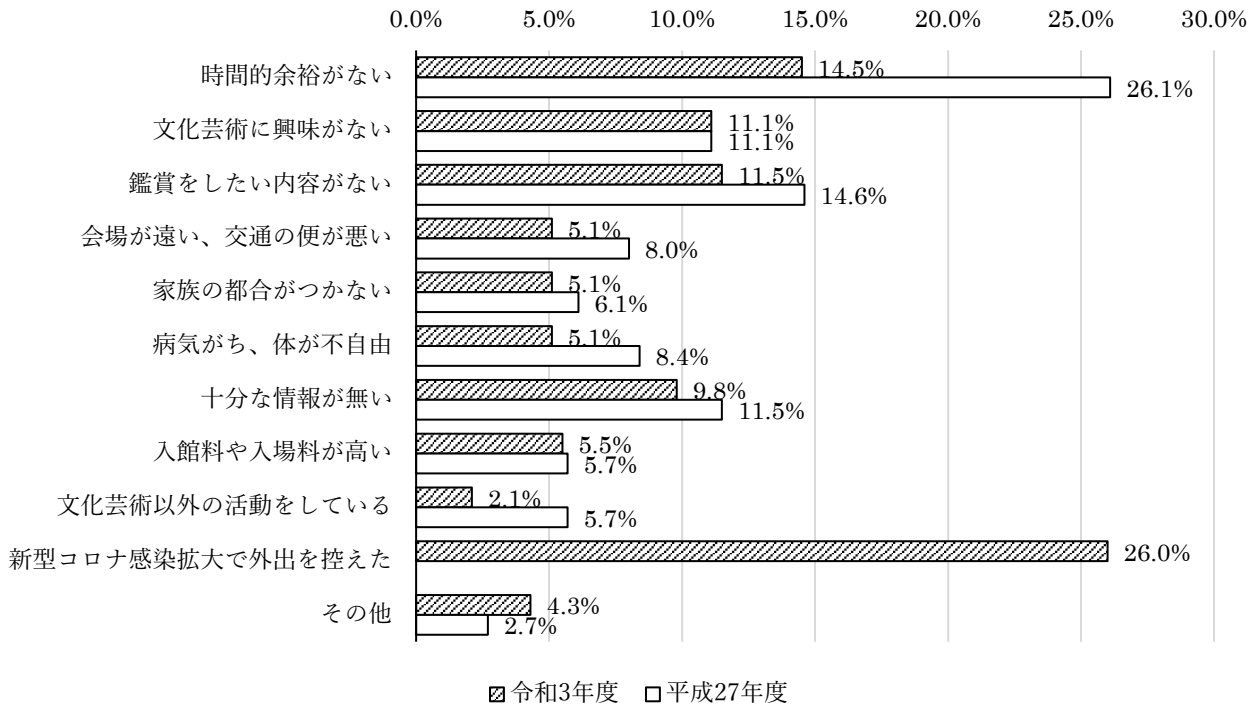
「鑑賞をしたものはない」では、文化芸術を鑑賞することが「重要」とするのは 12.3%、「どちらか

といえば重要」が 38.6%、「あまり重要ではない」が 36.0%、「重要ではない」が 13.2%であり、文化芸術の鑑賞の重要度を低く評価する割合は 49.2%と半数近くを占める。鑑賞したことがない人にとって、文化芸術を鑑賞することを重要視する考えは低い。鑑賞した文化芸術で、「重要」の比率が低いものが「映画」27.0%、「演芸（落語、漫才等）」28.6%、「歴史的建造物・埋蔵文化」33.3%、「音楽」33.6%である。一方、文化芸術を鑑賞することを「あまり重要ではない」との回答では比率が高く、つまり文化芸術を鑑賞することを重要視しない回答者で、鑑賞の多い文化芸術である。いわゆる「娯楽」の要素の強く、また歴史的建造物の見学が文化芸術とはみなし難いとされることが背景にあると思われる。

表3-2-5 鑑賞をしたものはない理由（M.A）

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
鑑賞をしたものはない理由[a]	時間的余裕がない	34	14.5%	29.6%
	文化芸術に興味がない	26	11.1%	22.6%
	鑑賞をしたい内容がない	27	11.5%	23.5%
	会場が遠い、交通の便が悪い	12	5.1%	10.4%
	家族の都合がつかない	12	5.1%	10.4%
	病気がち、体が不自由	12	5.1%	10.4%
	十分な情報が無い	23	9.8%	20.0%
	入館料や入場料が高い	13	5.5%	11.3%
	文化芸術以外の活動をしている	5	2.1%	4.3%
	新型コロナ感染拡大で外出を控えた	61	26.0%	53.0%
	その他	10	4.3%	8.7%
合計		235	100.0%	204.3%

図3-2-2 鑑賞をしたものはない理由(令和3年度、平成27年度)



過去 3 年間で直接鑑賞した文化芸術との問いについて、「鑑賞をしたものがない」との回答者 115 件に対し、その理由を複数回答で問うた結果を示す。

最も多い回答は、「新型コロナ感染拡大で外出を控えた」で 61 件、全回答において 26.0%を占め、また「ケースのパーセント」が 53.0%となった。回答者の過半数が、新型コロナウィルス感染症の拡大を鑑賞したものはない理由としている。新型コロナウィルス感染症の拡大を背景に文化芸術活動の多くが休止、延期を余儀なくされたりしており、その影響の大きさがうかがえよう。次いで、多い理由は、「時間的余裕がない」で 34 件、14.5%、29.6%となっている。この他、回答者のおかれている環境上、やむを得ない理由と考えられる「家族の都合がつかない」と「病気がち、体が不自由」はどちらも 12 件の回答者で、全回答の 5.1%、「ケースのパーセント」で 10.4%を占めている。新型コロナウィルス感染症の拡大を含め、過半数がやむを得ない理由で鑑賞ができなかった、と考えられる。

「鑑賞をしたい内容がない」は 27 件で比率は、それぞれ 11.5%、23.5%「文化芸術に興味がない」は 26 件、11.1%、22.6%であり、文化芸術について重要視をしていないことの理由は、全体の 2 割を超える。そして「十分な情報が無い」が 23 件、9.8%、20.0%、「入館料や入場料が高い」13 件、5.5%、11.3%、「会場が遠い、交通の便が悪い」12 件、5.1%、10.4%で、これらは文化芸術へのアクセスの改善の必要性を示す内容である。特に、「十分な情報が無い」との回答が多いことは、文化政策を遂行する上にあって、改善すべき重要な観点といえる。

『平成 27 年度調査』と比較した場合、平成 27 年度では「時間的余裕がない」が 26.1%を占めており最大の割合を占めた。新型コロナウィルス感染症の拡大もあり、令和 3 年度は、時間的余裕があっても人込みに出掛けて文化芸術を鑑賞することに躊躇したのであろう。平成 27 年度が令和 3 年度と比べて比率が高い項目として、「鑑賞したい内容がない」が 14.6%から 11.5%に、また「文化芸術以外の活動をしている」との理由も 5.7%から 2.1%になっている。

表3-2-6 鑑賞した場所（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高砂市内のみ	13	4.7	4.8	4.8
	高砂市内のほうが多い	14	5.1	5.2	10.0
	市外のほうが多い	129	46.9	48.0	58.0
	市外のみ	113	41.1	42.0	100.0
	合計	269	97.8	100.0	
欠損値	無回答	6	2.2		
合計		275	100.0		

（参考）『平成 27 年度調査』鑑賞した場所

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	高砂市内でのみ	20	4.2	6.2	6.2
	高砂市内のほうが多い	22	4.6	6.8	13.0
	高砂市外のほうが多い	127	26.6	39.2	52.2
	高砂市外でのみ	155	32.5	47.8	100.0
	合計	324	67.9	100.0	
欠損値	システム欠損値	153	32.1		
合計		477	100.0		

鑑賞をした文化芸術のある回答者を対象に、鑑賞した場所についての設問であるが、「高砂市内のみ」は 13 件、4.8%、「高砂市内のほうが多い」は 14 件、5.2%、「市外のほうが多い」129 件、48.0%、「市外のみ」は 113 件、42.0%である。高砂市内での文化芸術の鑑賞が困難であることを示している。

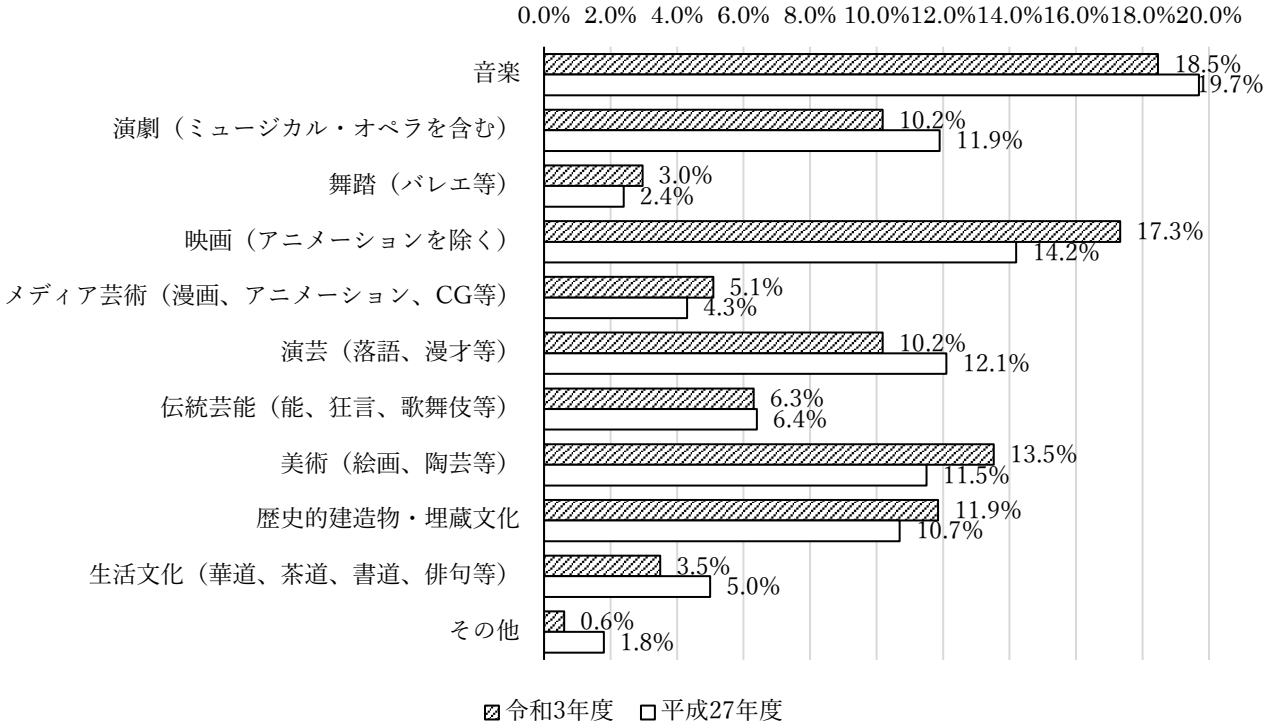
『平成 27 年度調査』では、「高砂市外の方が多い」が 39.2%、「高砂市外でのみ」が 47.8%を占めており、高砂市内で文化芸術の鑑賞がなされていないことは、平成 27 年度と令和 3 年度の調査の間でほぼ変化がない。

（3）今後、直接鑑賞したい文化芸術について

表3-3-1 今後、直接鑑賞したい文化芸術（M.A）

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
今後、劇場、映画館などで直接鑑賞をしてみたい文化芸術[a]	音楽	243	18.1%	62.5%
	演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）	134	10.0%	34.4%
	舞踏（バレエ等）	39	2.9%	10.0%
	映画	228	17.0%	58.6%
	メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）	67	5.0%	17.2%
	演芸（落語、漫才等）	134	10.0%	34.4%
	伝統芸能（能、狂言、歌舞伎等）	83	6.2%	21.3%
	美術（絵画、陶芸等）	178	13.3%	45.8%
	歴史的建造物・埋蔵文化	156	11.6%	40.1%
	生活文化（華道、茶道、俳句等）	46	3.4%	11.8%
	その他	8	0.6%	2.1%
	鑑賞をしたいものはない	26	1.9%	6.7%
合計		1,342	100.0%	345.0%

図3-3-1 今後、直接鑑賞したい文化芸術（令和3年度、平成27年度）



注）図中の比率は「今後、直接鑑賞したい文化芸術」の合計数（1,316件）を分母とする構成比率。そのため令和3年度分については、表3-3-1にある「パーセント」の数値と一致しない点に注意すること。

今後、直接鑑賞したい文化芸術の合計数は 1,342 件あり、「鑑賞をしたいものはない」の 26 件を引いた 1,316 件が鑑賞したい文化芸術の数である。鑑賞したいもののある回答者数で除し、平均すると 3.6

件である。実際に過去 3 年間で直接文化芸術を鑑賞した平均の 2.8 件を大幅に上回る。回答者は文化芸術の鑑賞に「飢えている」。新型コロナウィルス感染症の拡大で、鑑賞の機会が奪われていることが背景にある。

今後、鑑賞したい文化芸術は、「音楽」が最も多く、243 件、18.1%、「ケースのパーセント」では 62.5%を占め、全ての回答者の 2/3 が「音楽」を回答した。なお表中の「ケースのパーセント」は「鑑賞したいものはない」とする 26 件も含む、全ての回答者を分母とする比率である。次いで「映画」が 228 件、17.0%、58.6%で、回答者の過半数が「映画」を鑑賞したいと希望している。「美術（絵画、陶芸等）」は 178 件、13.3%、45.8%、「歴史的建造物・埋蔵文化」が 156 件、11.6%、40.1%である。いずれも「過去 3 年間で実際に鑑賞をした」との回答の多かった内容である。また、「演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）」と「演芸（落語、漫才等）」といった舞台芸術がそれぞれ 134、10.0%、34.4%と並ぶ。これらは実際に鑑賞した件数は少なかったが、鑑賞したい文化芸術として高い割合を占める。

『平成 27 年度調査』の結果と比較すると、「音楽」は令和 3 年度が 18.5%と平成 27 年度の 19.7%より低下、「映画」は平成 27 年度の 14.2%から、17.3%へと増加している。「美術（絵画、陶芸等）」は 11.5%から 13.5%へ、「歴史的建造物・埋蔵文化」は 10.7%から 11.9%へ、令和 3 年度の方が高くなっている。一方、舞台芸術である「演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）」は 11.9%から 10.2%へ、また「演芸（落語、漫才等）」は 12.1%から 10.2%へと低下している。

表3-3-2 年齢階級別・今後、直接鑑賞したい文化芸術クロス表

			年齢階級						
			18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	合計
今後、劇場、映画館などで直接鑑賞をしてみたい文化芸術[a]	音楽	度数	15	23	53	49	51	51	242
		%	25.0%	18.9%	21.2%	17.2%	17.0%	15.8%	
	演劇（ﾐｭｰｼﾞｶﾙ、ｵﾍﾟﾗ等を含む）	度数	6	14	29	34	31	20	134
		%	10.0%	11.5%	11.6%	11.9%	10.3%	6.2%	
	舞踏（バレエ等）	度数	3	6	4	6	10	10	39
		%	5.0%	4.9%	1.6%	2.1%	3.3%	3.1%	
	映画	度数	16	22	40	50	48	52	228
		%	26.7%	18.0%	16.0%	17.5%	16.0%	16.1%	
	メディア芸術（漫画、写真、ＣＧ等）	度数	5	11	15	15	12	8	66
		%	8.3%	9.0%	6.0%	5.3%	4.0%	2.5%	
	演芸（落語、漫才等）	度数	3	12	27	26	31	35	134
		%	5.0%	9.8%	10.8%	9.1%	10.3%	10.9%	
	伝統芸能（能、狂言、歌舞伎等）	度数	2	6	12	18	22	23	83
		%	3.3%	4.9%	4.8%	6.3%	7.3%	7.1%	
	美術（絵画、陶芸等）	度数	5	13	29	36	43	51	177
		%	8.3%	10.7%	11.6%	12.6%	14.3%	15.8%	
	歴史的建造物・埋蔵文化	度数	4	11	29	32	37	43	156
		%	6.7%	9.0%	11.6%	11.2%	12.3%	13.4%	
	生活文化（華道、茶道、俳句等）	度数	0	2	9	11	10	14	46
		%	0.0%	1.6%	3.6%	3.9%	3.3%	4.3%	
	その他	度数	0	1	1	2	2	2	8
		%	0.0%	0.8%	0.4%	0.7%	0.7%	0.6%	
	鑑賞をしたいものはない	度数	1	1	2	6	3	13	26
		%	1.7%	0.8%	0.8%	2.1%	1.0%	4.0%	
合計		度数	60	122	250	285	300	322	1,339
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表3-3-3 年齢階級別・平均鑑賞したい文化芸術数

	年齢階級						
	18～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～69 歳	70 歳以上	合計
鑑賞したい文化芸術数	59	121	248	279	297	309	1,316※
鑑賞したいとの回答者数	21	32	60	66	82	102	364
鑑賞したい文化芸術平均数	2.8	3.8	4.1	4.2	3.6	3.0	3.6

※年齢階級について無回答者の分を含む

年齢階級別での比較を行う。「音楽」では、「18～29 歳」で 25.0%である他、「40～49 歳」で 21.2%など全ての年齢階級で 15%を上回る高い比率となっている。「映画」は「18～29 歳」が 26.7%と最も高く、「30～39 歳」で 18%であるなど、いずれの年齢階級も 16%以上の比率である。「美術（絵画、陶芸等)」では「70 歳以上」で 15.8%、「60～69 歳」で 14.3%であるなど、年齢の高い階級での比率が高くなっている。「歴史的建造物・埋蔵文化」についても、「70 歳以上」で 13.4%を占める他、「40～49 歳」以上の年齢階級での比率が高い。

鑑賞したい文化芸術の平均数では、「30～39 歳」より上の階級での平均数は「過去 3 年間で鑑賞した文化芸術」のそれを大きく上回るが、「18～29 歳」で 2.8 件と増え幅が小さい。若年者は、直接出向いて、新たに文化芸術を鑑賞することに関心が薄いのではないか。新型コロナウィルス感染症の拡大の中で、オンラインでのサブスク型の映像や音楽配信サービスが広がり、直接出向かずとも、自宅で文化芸術をスマートフォンや PC で楽しむことに、若年者が「切り替わった」のかもしれない。

（4）自分自身での文化活動や支援する活動について

図3-4-1 自分自身での文化活動や支援する活動

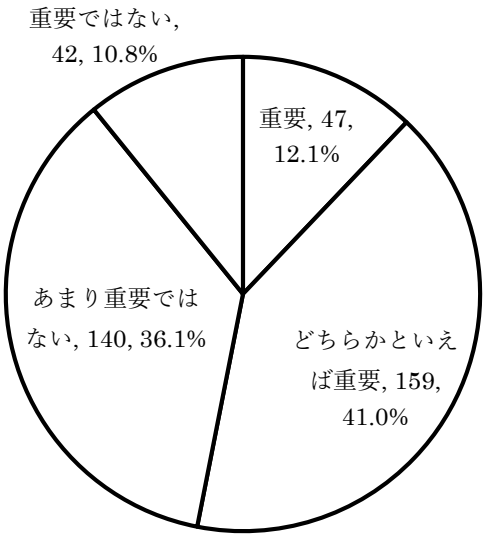


表3-4-1 自分自身での文化活動や支援する活動について（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要	47	12.1	12.1	12.1
	どちらかといえば重要	159	40.8	41.0	53.1
	あまり重要ではない	140	35.9	36.1	89.2
	重要ではない	42	10.8	10.8	100.0
	合計	388	99.5	100.0	
欠損値	無回答	2	0.5		
合計		390	100.0		

（参考）『平成 27 年度調査』自分自身での文化活動や支援する活動について

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	重要	76	15.9	16.0	16.0
	どちらかといえば重要	121	25.4	25.5	41.6
	普通	205	43.0	43.2	84.8
	あまり重要ではない	49	10.3	10.3	95.1
	重要ではない	23	4.8	4.9	100.0
	合計	474	99.4	100.0	
欠損値	システム欠損値	3	0.6		
合計		477	100.0		

自分自身での文化活動や支援をする活動について、「重要」との回答は 47 件、12.1%であり、「どちらかといえば重要」が 159 件、41.0%、「あまり重要ではない」は 140 件、36.1%、「重要ではない」は 42 件、10.8%である。「重要」と「どちらかといえば重要」の合計は 53.1%で、過半数を占め、自ら行う、文化活動、あるいはその支援を重要とする方が多いといえる。

『平成 27 年度調査』では、「重要」が 16.0%、「どちらかといえば重要」が 25.5%であり、「あまり重

要ではない」10.3%、「重要ではない」4.9%よりも高い。ただ「普通」が 43.2%で半数近くを占め、今回調査ではそれが「どちらかといえば重要」と「あまり重要ではない」に分散したと思われる。

図3-4-2 年齢階級別・自分自身での文化活動や支援する活動について

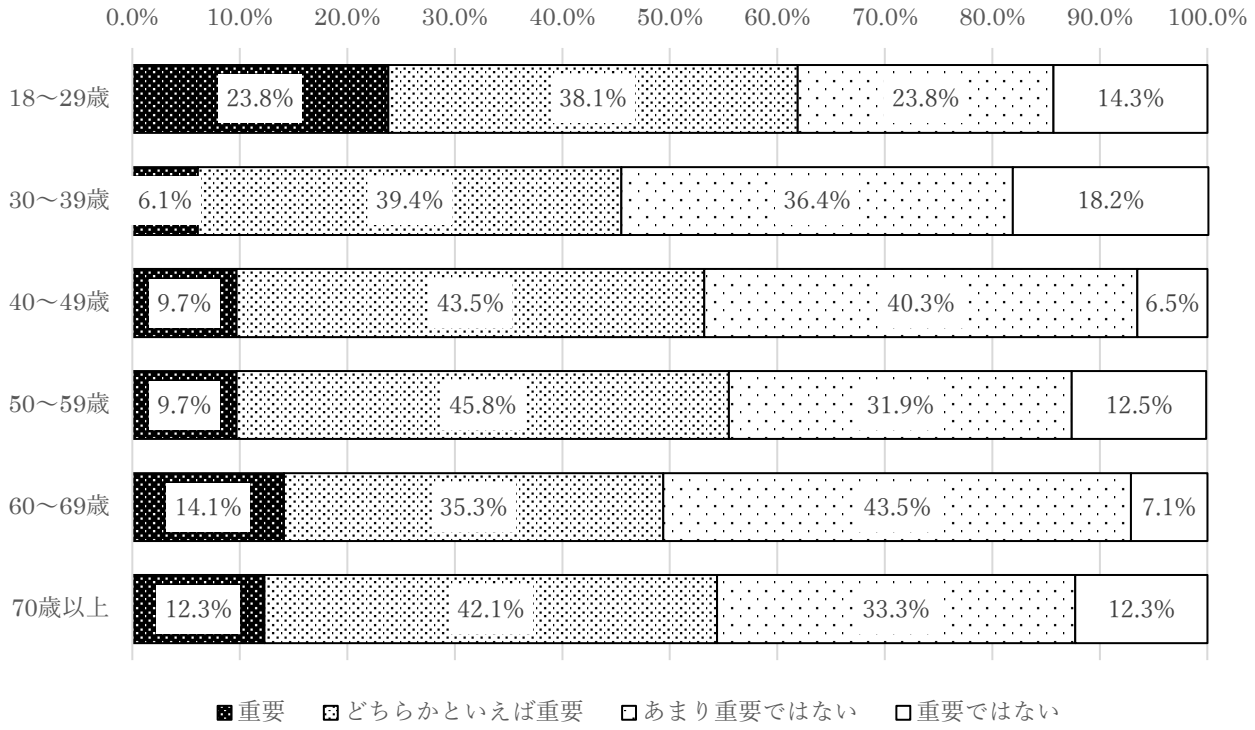


表3-4-2 年齢階級 と 自分自身での文化活動や支援する活動について のクロス表

			自分自身での文化活動や支援する活動について				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
年齢階級	18～29歳	度数	5	8	5	3	21
		%	23.8%	38.1%	23.8%	14.3%	100.0%
	30～39歳	度数	2	13	12	6	33
		%	6.1%	39.4%	36.4%	18.2%	100.0%
	40～49歳	度数	6	27	25	4	62
		%	9.7%	43.5%	40.3%	6.5%	100.0%
	50～59歳	度数	7	33	23	9	72
		%	9.7%	45.8%	31.9%	12.5%	100.0%
	60～69歳	度数	12	30	37	6	85
		%	14.1%	35.3%	43.5%	7.1%	100.0%
	70歳以上	度数	14	48	38	14	114
		%	12.3%	42.1%	33.3%	12.3%	100.0%
合計		度数	46	159	140	42	387
		%	11.9%	41.1%	36.2%	10.9%	100.0%

次に、年齢階級別で自分自身での文化活動や支援する活動について示す。年齢階級別では「18～29歳」で「重要」は 23.8%であり、「どちらかといえば重要」の 38.1%との合計は 61.9%となる。「30～39 歳」では 45.5%、「40～49 歳」で 53.2%、「50～59 歳」で 55.5%と上昇傾向にあるが、「60～69 歳」

で 49.4%、「70 歳以上」で 54.4%である。「18～29 歳」を除くと、年齢が 60 歳代まで「重要」とする比率が高くなる。ただし、統計的には年齢階級による有意差は見られない。

図3-4-3 高砂市が文化的なまちと感じるか と 自分自身での文化活動や支援する活動について

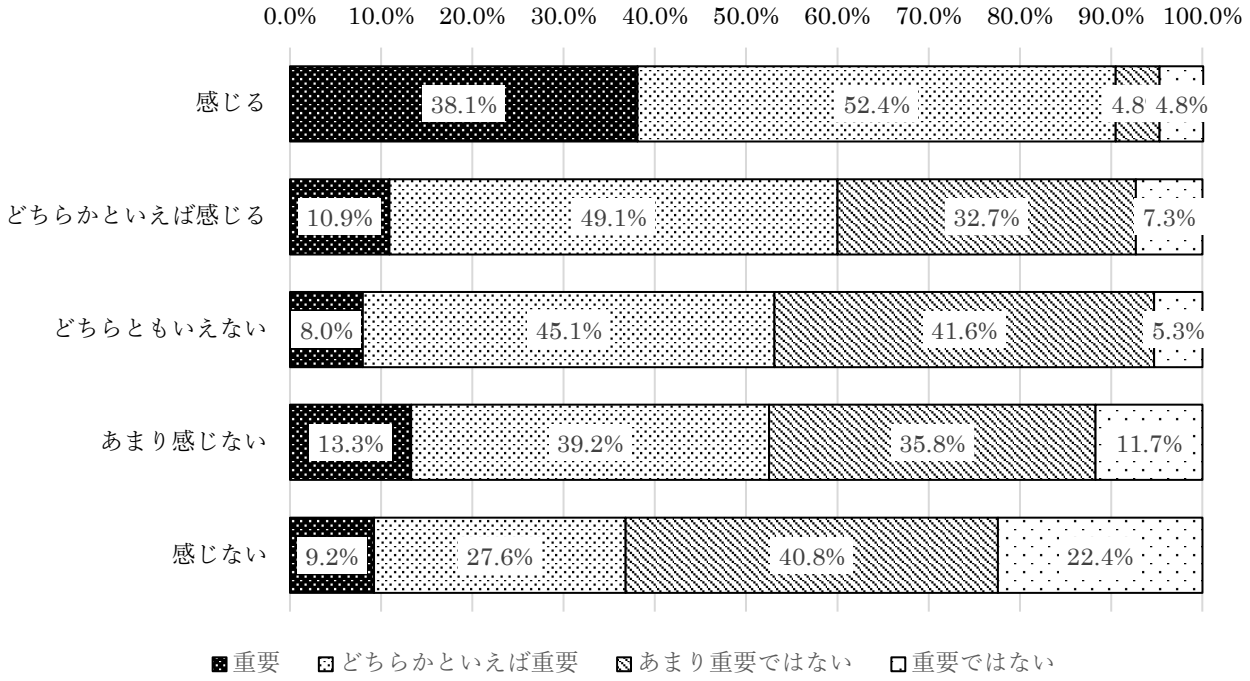


表3-4-3 高砂市が文化的なまちと感じるか と 自分自身での文化活動や支援する活動について のクロス表

			自分自身での文化活動や支援する活動について				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
高砂市が文化的なまちと感じるか	感じる	度数	8	11	1	1	21
		%	38.1%	52.4%	4.8%	4.8%	100.0%
	どちらかといえば感じる	度数	6	27	18	4	55
		%	10.9%	49.1%	32.7%	7.3%	100.0%
	どちらともいえない	度数	9	51	47	6	113
		%	8.0%	45.1%	41.6%	5.3%	100.0%
	あまり感じない	度数	16	47	43	14	120
		%	13.3%	39.2%	35.8%	11.7%	100.0%
	感じない	度数	7	21	31	17	76
		%	9.2%	27.6%	40.8%	22.4%	100.0%
合計		度数	46	157	140	42	385
		%	11.9%	40.8%	36.4%	10.9%	100.0%

高砂市が文化的なまちと感じるか、と自分自身での文化活動や支援する活動についてのクロス集計の結果を示す。

高砂市が文化的なまちと「感じる」との回答者では、自分自身での文化活動や支援する活動について

「重要」との回答は38.1%、「どちらかといえば重要」が52.4%であり、9割が自分自身の活動を重要と考えている。次に、高砂市が文化的なまちと「どちらかといえば感じる」では、自分自身での活動などが「重要」とするのは10.9%、「どちらかといえば重要」が49.1%、「あまり重要ではない」は32.7%、「重要ではない」は7.3%である。高砂市が文化的なまちかどうかについては「どちらともいえない」との回答者で、「重要」が8.0%、「どちらかといえば重要」が45.1%、「あまり重要ではない」が41.6%、「重要ではない」が5.3%となる。「どちらかといえば重要」や「あまり重要ではない」と、4つの選択肢で中間に位置する意見が9割弱を占める。次に、高砂市が文化的なまちと「あまり感じない」の場合、自分自身での活動を「重要」とする考えが13.3%、「どちらかといえば重要」が39.2%、「あまり重要ではない」が35.8%、「重要ではない」が11.7%である。そして、高砂市が文化的なまちとは「感じない」では、自分自身の活動が「重要」であるというのは9.2%、「どちらかといえば重要」は27.6%、「あまり重要ではない」は40.8%、「重要ではない」は22.4%となり、「重要ではない」「あまり重要ではない」の合計は63.2%となる。

以上から、高砂市が文化的なまちと感じている人は、自分自身での文化活動や支援する活動についても重要と考えている。ピアソンのカイ2乗検定から、文化的なまちとの評価による違いで、自分自身の文化活動や支援する活動への重要度については、有意な差が見られた。

表3-4-4 日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて と 自分自身での文化活動や支援する活動について のクロス表

			自分自身での文化活動や支援する活動について				
			重要	どちらかといえば重要	あまり重要ではない	重要ではない	合計
日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて	重要	度数	39	35	9	3	86
		%	83.0%	22.3%	6.4%	7.1%	22.3%
	どちらかといえば重要	度数	8	104	66	7	185
		%	17.0%	66.2%	47.1%	16.7%	47.9%
	あまり重要ではない	度数	0	18	59	18	95
		%	0.0%	11.5%	42.1%	42.9%	24.6%
	重要ではない	度数	0	0	6	14	20
		%	0.0%	0.0%	4.3%	33.3%	5.2%
合計		度数	47	157	140	42	386
		%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することと、自分自身での文化活動や支援する活動についての考え方のクロス集計を示す。

表頭の「自分自身での文化活動や支援する活動について」を左から順に確認する。「自分自身で文化活動を行うこと」を「重要」とする回答者の、83.0%が「日常生活の中で優れた文化や芸術を鑑賞することについて」も「重要」と回答している。自分自身の活動を「どちらかといえば重要」とする中では、66.2%が「鑑賞すること」も「どちらかといえば重要」と回答をしている。「あまり重要ではない」との回答者の 42.1%は、「鑑賞」についても「あまり重要ではない」と回答しており、さらに「重要ではない」との回答者の 42.9%が、「鑑賞すること」を「あまり重要ではない」とし、33.3%が「重要ではない」とするなど、文化芸術について自分自身の活動と鑑賞との重要性の認識は比例的な関係があると考えられる。これは高砂市民が、自ら文化芸術活動を担い、文化芸術活動を支援するために、鑑賞の機会の拡大が必要であることを示唆する。

（5）過去3年間に創作や演奏、出演など鑑賞以外で関わった文化芸術

表3-5-1 過去3年間に創作や演奏、出演など鑑賞以外で関わった文化芸術（M.A）

		応答数		ケースのパーセント1	ケースのパーセント2
		度数	パーセント		
過去3年間に創作や演奏、出演など鑑賞以外で関わった文化芸術[a]	演奏、出演やその支援	24	22.6%	32.9%	6.2%
	美術・書道・文学等の創作	18	17.0%	24.7%	4.6%
	美術や茶道等の習い事	16	15.1%	21.9%	4.1%
	伝統芸能への参加や支援	6	5.7%	8.2%	1.5%
	文化施設の活動への支援	10	9.4%	13.7%	2.6%
	美術展など文化行事の支援	8	7.5%	11.0%	2.1%
	歴史建造物の保存、活用	7	6.6%	9.6%	1.8%
	学校等で文化芸術体験の支援	10	9.4%	13.7%	2.6%
	その他	7	6.6%	9.6%	1.8%
	関わったことの総計	106	100.0%	145.2%	
	特に関わったことはない	317			81.7%
合計		423			109.0%

（参考）『平成 27 年度調査』自ら創作、参加した芸術活動

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
自ら創作、参加した芸術活動	音楽・演劇・舞踏・映画・演芸等への参加、出演、創作、支援	32	6.1%	6.8%
	美術・書道・俳句・文学等の創作	19	3.6%	4.0%
	美術・茶道・華道・俳句・舞踊等の習い事	23	4.4%	4.9%
	地域の伝統芸能への参加や支援	17	3.2%	3.6%
	文化施設における各種活動への支援	9	1.7%	1.9%
	文化行事（音楽祭、美術展、観月会等)における支援	18	3.4%	3.8%
	歴史的な建物や遺跡などを保存・活用するための支援活動	11	2.1%	2.3%
	子どもや学校、お年寄りなどの芸術文化体験のための支援活動	24	4.6%	5.1%
	その他	9	1.7%	1.9%
	特におこなったことはない	362	69.1%	76.9%
合計		524	100.0%	111.3%

過去 3 年間で、鑑賞以外で実際にどのような文化芸術活動に関わってきたのかを示す。令和 2 年、3 年度は、新型コロナ感染症の拡大の問題もあり、関わる機会が失われたため、過去 3 年間を対象の期間としている。なお、表の見方であるが、「パーセント」は、関わったことの総計 106 件を分母とした比率である。「ケースのパーセント 1」は、「特に関わったことはない」との回答者を除いた 73 件の回答者数に対する比率である。「ケースのパーセント 2」は回答者総数 390 件に対する比率である。

さて、「特に関わったことはない」は 317 件で、回答件数の 74.9%、また回答者数の 81.7%（ケースのパーセント 2）を占めており、市民の多くは、鑑賞以外で文化芸術活動に関わることが少ないと思われる。『平成 27 年度調査』では、「特におこなったことはない」との回答は、それぞれ 69.1%、76.9%であった。今回の調査の方がやや増加している。

活動別では、「演奏、出演やその支援」が 24 件で、回答全体に対して 22.6%、そして「ケースのパーセント 1」は 32.9%であることから、回答者の 1/3 は、実際には演奏や出演などの舞台での活動が多い

といえる。次いで、「美術・書道・文学等の創作」が 18 件、17.0%、24.7%、そして「美術や茶道等の習い事」が 16 件、15.1%、21.9%となっており、創作活動や習い事について、自分自身での文化芸術活動としている。「伝統芸能への参加や支援」「文化施設の活動への支援」「美術展など文化行事の支援」「学校等で文化芸術体験の支援」と学校や行政などを中心に、文化芸術活動の支援にあたっている回答者の比率を求めると合計で 1/3 である 32.0%を占めている。

『平成 27 年度』調査で、自ら創作・参加した芸術活動では、「音楽・演劇・舞踏・映画・演芸等への参加、出演、創作、支援」が最も多く、「子どもや学校、お年寄りなどの芸術文化体験のための支援活動」が続いている。令和 3 年度、「学校等で文化芸術体験の支援」は上位にはあるが、第 4 位であり違いがある。新型コロナウィルス感染症により、学校行事の縮小が影響を与えていると考えられる。以下は、「美術・茶道・華道・俳句・舞踊等の習い事」「美術・書道・俳句・文学等の創作」が続き、この点、令和 3 年度の調査との差異は小さい。

関わった文化芸術活動の内、「演奏、出演やその支援」「美術・書道・文学等の創作」「美術や茶道等の習い事」を「自ら出演や創作、習い事」とまとめ、また「伝統芸能への参加や支援」「文化施設の活動への支援」「美術展など文化行事の支援」「歴史建造物の保存、活用」「学校等で文化芸術体験の支援」「その他」を、「文化芸術活動の支援」に統合して区分する。

表3-5-2 過去3年間での文化芸術への関わり方

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
自らによる文化芸術への関わり方[a]	自ら出演や創作・習い事	58	13.7%	14.9%
	文化芸術活動の支援	48	11.3%	12.4%
	特に関わったことはない	317	74.9%	81.7%
合計		423	100.0%	109.0%

表3-5-3 年齢階級と過去3年間での文化芸術への関わり方 クロス表

			自らによる文化芸術への関わり方[a]			
			自ら出演や創作・習い事	文化芸術活動の支援	特に関わったことはない	合計
年齢階級	18～29歳	度数	6	3	17	26
		%	23.1%	11.5%	65.4%	100.0%
	30～39歳	度数	0	2	31	33
		%	0.0%	6.1%	93.9%	100.0%
	40～49歳	度数	14	9	48	71
		%	19.7%	12.7%	67.6%	100.0%
	50～59歳	度数	8	5	61	74
		%	10.8%	6.8%	82.4%	100.0%
	60～69歳	度数	8	14	72	94
		%	8.5%	14.9%	76.6%	100.0%
	70歳以上	度数	22	15	87	124
		%	17.7%	12.1%	70.2%	100.0%
合計		度数	58	48	316	422

年齢階級別の文化芸術との関わり方についてクロス集計表から、「18～29歳」では、23.1%が「自ら出演や創作・習い事」に関わり、11.5%が「文化芸術活動の支援」に関わっている。比較的、若年者層が実は高砂市の、自ら行う文化芸術活動の担い手となっている。これに対し、「30～39歳」では、「特

に関わったことはない」が93.9%を占めるなど、この年代は文化芸術活動への関わりが特に小さい。また40歳以上の年齢階級では、「自ら出演や創作・習い事」の比率は低下し、「文化芸術活動の支援」が拡大する傾向にあるが、「70歳以上」は「自ら出演や創作・習い事」が17.7%となり、支援よりも自ら活動を楽しんでいる様子がうかがわれる。

表3-5-4 過去3年間に文化芸術に鑑賞以外で関わったことのない理由（M.A）

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
関わったことのない理由[a]	時間的余裕がない	117	19.7%	37.3%
	文化芸術に興味がない	39	6.6%	12.4%
	関わりたい文化芸術がない	38	6.4%	12.1%
	一緒に活動する仲間がいない	58	9.8%	18.5%
	家族の都合がつかない	23	3.9%	7.3%
	病気がちや体が不自由	21	3.5%	6.7%
	十分な情報が無い	84	14.1%	26.8%
	活動に費用がかかる	37	6.2%	11.8%
	鑑賞以外するつもりはない	86	14.5%	27.4%
	新型コロナ感染拡大で参加を控えた	78	13.1%	24.8%
	その他	13	2.2%	4.1%
合計		594	100.0%	189.2%

（参考）『平成 27 年度調査』文化芸術活動に参加しない理由

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
文化芸術に参加しない理由	時間的余裕がない	137	21.9%	37.5%
	そもそも文化芸術に興味がない	52	8.3%	14.2%
	参加したい活動が身近にない	67	10.7%	18.4%
	一緒に活動する仲間がいない	56	8.9%	15.3%
	家族の都合がつかない（子どもを預けることができない等）	26	4.1%	7.1%
	病気がちや体が不自由である	28	4.5%	7.7%
	十分な情報が無い	86	13.7%	23.6%
	活動に費用がかかる	36	5.7%	9.9%
	鑑賞するのはよいが自分で行うつもりはない	122	19.5%	33.4%
	その他	17	2.7%	4.7%
合計		627	100.0%	171.8%

過去 3 年間に自ら行う文化芸術について「特に関わったことはない」との回答者 317 件を対象とする「関わったことのない理由」について、最も多い回答は「時間的余裕がない」で 117 件、回答数に対する比率で 19.7%、回答者数 317 件を分母とする「ケースのパーセント」は 37.3%となっている。仕事や子育てなどで、最も多忙な「30～39 歳」で、「特に関わったことはない」の比率が 93.9%であったことから、「時間的余裕がない」ことが理由の上位にあることは想像に難くない。次いで「鑑賞以外するつもりはない」は 86 件、14.5%、27.4%である。「十分な情報が無い」が 84 件、14.1%、26.8%で続く。健康上や家族の問題で、活動をすることが困難、という理由を挙げる人は少なく、むしろ一緒に活動する仲間を紹介するなど、情報伝達の問題を解消することで、自ら行う文化芸術活動に参加する人も増加することが期待される。なお、「新型コロナ感染拡大で参加を控えた」は 78 件、13.1%、24.8%であり、

やはり無視できない数が理由として挙げている。

『平成 27 年度調査』（複数回答として集計）と比較するが、最も多い回答は、「時間的余裕がない」で 21.9%、37.5%、「鑑賞するのはよいが自分で行うつもりはない」が 19.5%、33.4%、そして「十分な情報が無い」、13.7%、23.6%であり、上位の理由は令和 3 年度と同一である。

表3-5-5 文化芸術活動に関わるきっかけとなった主な理由（S.A）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	知人、友人に誘われて	24	33.8	34.8	34.8
	テレビ、情報誌、ネット等を見て興味を持った	3	4.2	4.3	39.1
	家族・親族が活動していた	6	8.5	8.7	47.8
	学校での活動・学生時代の活動の継続	7	9.9	10.1	58.0
	プロの公演、展示会等を鑑賞して	3	4.2	4.3	62.3
	他人（プロを除く）の公演や活動を見学して	6	8.5	8.7	71.0
	格好がいい、あこがれから	4	5.6	5.8	76.8
	その他	16	22.5	23.2	100.0
	合計	69	97.2	100.0	
欠損値	無回答	2	2.8		
合計		71	100.0		

（参考）『平成 27 年度調査』自ら創作、参加したきっかけ

		応答数		ケースのパーセント
		度数	パーセント	
文化芸術に関わる理由（単数）	知人、友人に誘われて	46	29.1%	32.4%
	テレビ番組、情報誌、ネット等を見て興味を持った	19	12.0%	13.4%
	家族・親族が活動していた	18	11.4%	12.7%
	学校での活動として・学生時代の活動の継続として	18	11.4%	12.7%
	プロの公演、展示会等を鑑賞して	8	5.1%	5.6%
	他人(プロを除く)の公演、展覧会、活動等を見学して	10	6.3%	7.0%
	格好がいいから、なんとなく等	4	2.5%	2.8%
	その他	35	22.2%	24.6%
合計		158	100.0%	111.3%

過去3年間に文化芸術に鑑賞以外で関わっている回答者を対象として、文化芸術活動に関わるきっかけとなった主な理由を問うと、最も多い回答は「知人、友人に誘われて」が24件で34.8%を占める。次いで「その他」が16件、23.2%である。きっかけとなった理由はそれぞれである、ともいえる。市民が自ら文化芸術活動に関わるためには、活動の情報を広く提供し、また友人・知人の繋がりを活かし、一緒に活動する仲間を広げることが必要である。

『平成27年度調査』（複数回答として集計）と比較した場合、「知人、友人に誘われて」が最も多く、3割を占めている。興味深いのは「テレビ番組、情報誌、ネット等を見て興味を持った」は平成27年度では12.0%を占めたが、令和3年度には4.2%へと低下している点である。メディアを通して活動に「飛びつく」のではなく、身近な「お誘い」が活動のきっかけとなっている。

（6）文化芸術の鑑賞や文化活動についての意見（自由記述）

表3-6-1 文化芸術の鑑賞や文化活動についての意見（分類）

		度数	パーセント	有効パーセント	累積パーセント
有効	コロナによる活動の制限の中での課題や提言	8	2.1	9.8	9.8
	文化芸術に関わる施設や関連のインフラの不足	8	2.1	9.8	19.5
	文化芸術に関わる情報やソフト部分の不足	8	2.1	9.8	29.3
	文化芸術活動の誘致や機会の拡大	13	3.3	15.9	45.1
	高砂市での文化政策への批判	7	1.8	8.5	53.7
	文化芸術に触れることの重要性や期待	20	5.1	24.4	78.0
	文化政策に対する提案や期待	10	2.6	12.2	90.2
	文化芸術活動への参加が難しいこと	4	1.0	4.9	95.1
	文化芸術についてよくわからない	4	1.0	4.9	100.0
	合計	82	21.0	100.0	
欠損値	無回答	308	79.0		
合計		390	100.0		

文化芸術の鑑賞や文化活動についての意見を自由記述で頂いた。結果、82件の記述があった。これを9つの内容に分類して示す。以下、分類ごとに記された代表的な意見を示す。

文化芸術に触れることの重要性やその効果に対する意見が多く見られた。特に、子どもの頃から文化芸術に触れることの重要性について多く指摘をされている。高砂市の文化芸術活動の状況について、施設面の不足、情報提供の不足、芸術文化の提供機会の不足に分類すると、近隣の他都市と比べて、機会が少ないことの指摘がある。併せて、情報の不足から鑑賞や参加の機会を逃すことも意見として比較的多く見られた。文化政策への批判では、文化政策よりも重要とされる課題があり、そちらへの資源の投入の必要性などが指摘されている。

i.コロナによる活動の制限の中での課題や提言

【代表的意見】

- コロナ禍のおり、むずかしさは多々あったと思うが、人数制限や消毒の対策をしっかりして、今後は高砂市においても積極的な文化行事をふやしてほしいと思う。
- コロナ禍でも実施可能な方法を今後も検討してもらいたい。
- 芸術・芸能の仕事に関わっていらっしゃる方々、今、コロナ禍で苦労されている方が多いのではと案じております。

ii.文化芸術に関わる施設や関連のインフラの不足

【代表的意見】

- 高砂には美術館もなく、高砂市文化会館も古いし、行く気がしない。姫路や神戸に行くことが多い。
- 質の高い常設館が大都市に集中しており、それらを利用している。
- 交通整理をして交通機関が便利になると文化活動しやすくなると思います。市内に映画館が無いのが残念。

iii.文化芸術に関わる情報やソフト部分の不足

【代表的意見】

- 情報が入って来ないため文化芸術の鑑賞に参加するタイミングが少ない。
- 歴史・考古学などに取組む団体の情報がほしい。
- 案内が届きにくい。（情報）知った時にはチケットがない。

iv.文化芸術活動の誘致や機会の拡大

【代表的意見】

- 子どもたちが幼い時から文化芸術に触れられる機会を多くしてほしい。
- 交通の便が良く、市民、市民外でも気軽に参加、見学できる場所、イベントが高砂市には無い。神社等の秋まつりだけではあまりにもさびしく、閉鎖的。
- 高砂市内でも、音楽、演芸、演劇、映画など、様々なジャンルを鑑賞できたらいいなと思います。
- 高砂市は隣の加古川市や姫路市と比べ、文化活動や活動できる場所が少ないと思う。
- 狂言が好きなので、高砂へ狂言を誘致してほしい。

v.高砂市での文化政策への批判

【代表的意見】

- そもそも何が文化なのかが、良くわからない。それをキッチリ説明して欲しい。
- 特に重要だとは思わない。高砂市である必要があるのか疑問。
- 文化活動を否定はしませんが市には文化施策より他にお金をかけてもらいたいです。ないものが多いので。

vi.文化芸術に触れることの重要性や期待

【代表的意見】

- なんとなく伝統文化にふれることや継承することは重要だろうと思っています。
- 幼いうちから芸術、伝統文化にふれることは、心にゆとりやあたたかさを与えるため、人間形成にとって重要である。子ども達には、学校教育活動の中で、芸術文化を平等に与える必要があると思われる。
- 積極的に活動に参加することで「あ、こんなのがあるのか」「知らなかった」など新しい気づきはある。子どものときからそういった経験ができる機会があれば大人になっても自分で行ったり、子供にさせてあげようと気持ちになったりすると思います。
- 音楽や美術は人の心にいやしを与えてくれます。物のようにかさばる物ではなく、記憶に美しい景色を残すことは素晴らしいと思います。

vii.文化政策に対する提案や期待
【代表的意見】 ● 文化というと堅いイメージがある。もっと気軽に触れられるようになればいいと思う。 ● 文化的活動は受けついでいくのがよいと思う。担い手がなくなると消えてしまうから。また、文化的な生活ができることは大切だと思う。 ● 料金を課すべきと考えます。文化を体現する方々には課した料金からお金を払うべきと考えます。 ● 全ての市が色々な文化行事、美術館を持てる訳ではないので、特徴を絞った方向で行うと良いのではないか。

viii.文化芸術活動への参加が難しいこと
【代表的意見】 ● 親の介護、自分自身の病気等でここ３～４年は全く、外に出る機会がないのは残念です。１０年ほど前は、華道、コーラス、ボランティア等、仲間と楽しく活動していたのを思い出しました。 ● 文化・芸術は生活に余裕がないとできません。

ix.文化芸術についてよくわからない
● このアンケートがくるまで文化施策について深く考えたことはありませんでした。意見ではありませんが高齢者が安心安全に通える場所であればありがたいです。

注：文意を損なわぬ範囲で文章の調整を行っている。